

平岡東小だより

特別号

2019.9.27

平岡東小学校

今年度も全国の6年生を対象として、4月18日(木)に「2019年度全国学力・学習状況調査」を実施されました。これまでは、国語・算数それぞれに、「主に知識」の力を問うA問題と「主に活用」の力を問うB問題がありましたが、今年度よりA・B問題が合わさって、それぞれ「国語」と「算数」として、調査がおこなわれました。その調査結果が9月に公表されました。今後の教育の改善と向上に向けて、調査結果を検証し、本校としての課題と改善策などを以下のようにまとめましたので、ご報告させていただきます。

《学力状況調査の結果》

国語

…図表やグラフから目的を捉えたり、わかりやすく伝えるための記述の工夫を捉えたりして書く力を問われている問題は、正答率が高かったです。日頃から書くことを丁寧にできている成果が出ていると思います。一方、課題としては、国語全体の結果が、全国平均をやや下回っていました。特に、三点。一点目は、話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめる問題やことわざの意味を理解して、自分の表現に用いる問題に課題が見られました。二点目は、同音異義語の習得が課題です。漢字の字形を注意し、繰り返し書いて習得するだけでなく、中学校進学を見据えて、改めて漢字のもつ意味を考えつつも、文や文章の中で適した漢字を使う、同音異義語を再度確認しながら、漢字の読み書きの学習をおこなっていくことが効果的です。三点目に、「話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめる」といった思考や表現を問う問題で無解答率が高かったことが課題と考えます。今後も様々な場面で、言葉のもつ豊かさや多様性を感じさせるとともに、基礎的・基本的な内容の定着と思考力、判断力、表現力等の育成に向けた取り組みを進めていくことが大切と感じています。

算数

…四則計算等、基本的な計算力は身につけています。日々の学級での学習や家庭学習の効果が出ていると思います。また、算数全般に本校の無回答率は全国平均より低かったです。これまで本校の課題の一つでもあっただけに、何とか解答しようという学習意欲を強く感じ、嬉しく思いました。算数全体の結果は、全国平均とほぼ同程度でしたが、「数と計算」における小数の加法と乗法の混合した計算や「数量関係」における単位量あたりの意味を理解したり、求め方を記述したりする問題において課題が見られました。中でも、「数と計算」「数量関係」の領域にあたる3(4)「示された除法の式の意味を理解している」問題は、児童には難しく、小数の除法を整数の除法に直して計算する時には、除法に関して成り立つ性質を用いることを確認し、問題の式が何を求めているかを図や数直線を用いて考察することが大切だと思います。今後も四則混合した整数と小数の計算をおこなうことで、式の成り立つ性質を見出し、表現する力や計算の順序のきまりを理解する力を身につけさせる学習指導に努めます。複数の情報の中から必要な数量を選択し、立式したりする学習を充実させることが大切であると考えます。

《児童質問紙調査の結果》

- 良好** 肯定的な回答〔当てはまる、どちらかといえば当てはまる〕をした割合が高い
- ・学校のきまりを守っていますか。 →97.8%
 - ・いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いませんか。 →97.8%
 - ・人の役に立つ人間になりたいと思いませんか。 →97.8%
 - ・学校に行くのは楽しいと思いませんか。 →97.5%

※算数の関心・意欲・態度を問う質問で、肯定的に捉えている児童が全国平均と比べても、とても多かったです。

- 課題** 肯定的な回答〔当てはまる、どちらかといえば当てはまる〕をした割合が低い
- ・読書は好きですか。 →64.2%
 - ・新聞を読んでいますか。 → 8.0%
 - ・国語の勉強は好きですか。 →55.5%

※学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日あたりに読書をする時間が、全国平均よりも短いこともわかりました。

- ・ 3時間以上 → 3.6%
- ・ 2～3時間以上 → 8.8%
- ・ 1～2時間以上 → 18.2%
- ・ 30分～1時間 → 23.4%
- ・ 30分未満 → 19.0%
- ・ 全くしない → 27.0%

《今後の改善策》

今回の全国学力・学習状況調査の結果から、学習面では調査や質問紙からも国語が苦手という傾向がわかりました。この課題に対応するためにも、加古川市全体で取り組んでいる協同的探究学習の研究を今以上に研鑽を重ねて、今後も「主体的に言語活動に取り組み、共に学び伝え合う授業づくり」を継続的に取り組むことで、指導していきたいと考えています。もう少し詳しく述べますと、多様な考えや解答法が可能な非定型問題に児童が主体的に取り組み、一人ひとりの問題の解き方や自分の考えを表現し、他者と関連づけをおこなう対話的な学びを国語だけでなく、多様な教科で取り入れる等、深い学びにつながる授業を一層充実させることが、必要と感じました。

質問紙では、自尊心や自己肯定感を問う質問、達成感や挑戦心を問う質問、規範意識を問う質問で、本校は全国平均よりも肯定的な回答率が高かったです。また、「地域の行事に参加している」「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある」「自分の住んでいる地域のことを外国の人に知ってもらいたい」と回答した児童の割合が、全国平均と比較して高い傾向にあり、地域と関わろうとする意識の高さがうかがえます。きまりを守ることやいじめを許さないことについて、正しい認識をもっていることが確認できたことは、人権意識の基礎が培われている児童が多いと、本校教職員一同、嬉しく感じています。

今後も児童の気持ちに寄り添って、日々の児童の変化を直接のかかわりや日記・アンケート等で、早期に発見及び情報交換・情報共有し、お互いに心の通い合った教育活動を進めていけるよう、教職員が一丸となり、「チーム 平岡東」で取り組んでいきます。本校の学校教育目標に掲げている『自ら学び 共に伸びる子の育成』のためには、保護者の皆様や地域の方々のご協力が必要不可欠です。平岡東小学校の教育に、変わらぬご理解ご支援のほど、何卒よろしくお願ひいたします。